

研修報告「議員・職員のための地域活性化をいかに進めるか in 東京」 平成 29 年 8 月 22 日

日本共産党市議団長 近藤栄次郎様

下関市議会議員 江原満寿男

1. 研修目的

下関市の過疎地域（豊田・豊北）は、合併後 12 年間で、過疎化は一層加速され「これまでの延長線上の対応では済まされない事態」という認識のもと、新たな地域おこしの対策を探るべく表記の地方議会総合研究所主催のフォーラムに参加しました。

2. 研修日程および受講人数；2017 年 7 月 28 日

10:00～12:30「地域活性化のための行政の在り方」（1 県議会 5 市議会 12 人）

①地域活性化の意味と歴史 ②地方対都市 ③コンパクトシティと地方都市の新しい形 ④住民と地域活性化の関わり ⑤地方創生

14:00～17:00「地域活性化の新たな展開」（5 市議会 5 人）

3. 講師；中西穂高（帝京大学教授、元高知県副知事）

4. 講義概要～以下、印象深い点を報告します

①地域活性化 2 つの意味

・地域経済の活性化…数値測定が可能 地域住民の活動の活発化…数値表示が困難

②1990 年「過疎地域活性化特別措置法」制定以前は「地域振興」と言われ、それ以降「地域活性化」が多く用いられる。外からの活性化から内からの活性化への国の立地政策の変遷がある。

③民間では、減価償却が必要だが、行政は維持費が多くなならないなら OK とする。

上司が決断せずに、いろんな人が言って、なんとなく決まる行政から NPMI(新しい公共；市民や NPO、企業が公共サービスを提供)PPP(民営化、PFI、アウトソーシング、パウチャー制度)へ転換。なじまず失敗例も発生している。新たな行政マネジメントへの期待の反面、受注は大都市の企業で仕事が県外に流出する悩み。(私の感想・地域内経済循環を破壊する)

④コンパクトシティは中心市街地に住みやすい街づくりを進めること。

(私の感想・そうした拠点以外の地域の暮らしサポートをどうするか同時に具体化が必要)

⑤高知方式と地域活性化～受け皿の育成に力を入れて地域内雇用を図る。

～アウトソーシングにテレワークを活用

～発注事業の 94%、発注額の 85%が県内事業

～新規ビジネスを展開、県外から受注も

⑥地方創生と「まとめ」～基本目標、総合戦略、地方版総合戦略、地方創生人材支援制度

☞温故知新（地域活性化の歴史を踏まえて、地域資源の活用を地域が考えよ

☞前例にとらわれずにこれまでにない発想で

☞人を中心に据えた活性化（「よそ者・若者・ばか者」「地元・経験・賢人=議員の役割」）

(私の感想・・・まちづくり協議会が機能するかどうか？温故知新は、熟年パワーが不可欠)

以上午前、以下午後

⑦地域資源の見つけ方と活用

産業関連～農林水産物（食品、原材料） 工業製品（地域の特産品）

インフラ（光ネット、工業団地） 人～技術、人材 観光～自然、歴史・文化

⑧地域資源に付加価値をつける

変化（加工・極める） 結合（見せる・運ぶ・組み合わせる）

気持ちを作る（安心安全・由緒ブランドお墨付き）

⑨地域経営と中心市街地活性化

人を呼び込む施策を

全体戦略と個別店舗の戦略

⑩地域技術の活用（私の感想・・・阿川大工）

⑪地域活性化と大学

（私の意見・・・まちづくり協議会が市大共創センターの」協力で「豊北地域の活性化」
をテーマに9月23日にワークショップ）

⑫働き方改革と地域活性化

（私の意見・・・テレワークで豊北地域に企業を。通信基盤整備を願いたい）

5. 豊北地域の可能性 列挙（江原“思いつき”ベストテン）

①空き家紹介あっせん業

②空き公共施設（旧小中学校、幼稚園、保育所、公民館）の有効活用

③空き民間施設（滝部温泉、スーパー丸和2店舗、農協支所）の有効活用

④遊休農地活用（花公園構想など）

⑤有機農業と産直連携

⑥里山散策、山菜取り

⑦間伐材、竹粉・ペレット活用起業

⑧地引網

⑨子小中高大と地域連携（体験農林漁業・地域講師による「ふるさと学習」の可能性探求）

⑩遠隔地中学卒業生を下関北高校に招くために、下宿受け入れ態勢の構築